

# 令和 7 年ホヤ類調査結果速報 No. 1

令和 7 年 6 月 27 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見るができます。

【アドレス：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/hakodate/index.html>】

6 月 24 日に渡島管内八雲町黒岩地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

## 結果概要

### ・ 令和 7 年度調査を開始

### ・ 今年度は調査地点を変更

これまでの八雲町内浦地区から八雲町黒岩地区に変更になりました。

### ・ ヨーロッパザラボヤの付着なし

例年 6 月は付着が極めて少ない時期であり、例年同様の傾向です。

### ・ 水温はホヤの産卵開始水温よりも低い

深度 9m よりも深い層では産卵水温（13℃）未満であり、表層付近に生息するホヤを除き、大半のホヤは産卵していないと考えられます。

写真 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和 7 年 6 月 24 日 八雲地区

上段



中段



下段



5cm

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 水上・夏池 TEL：0138-83-2893

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された  
令和 7 年度有害生物（ザラボヤ）出現情報収集・解析及び情報提供事業で実施しています。

## 耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：6月24日、調査場所：八雲町黒岩沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（写真）。ヨーロッパザラボヤの付着は確認されませんでした（表1）。

9m層よりも深い層の水温はヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）を下回っていました（図2）。よって、表層付近に生息するヨーロッパザラボヤを除いて、まだ産卵が始まっていないと考えられます。今後、深い層の水温が上昇するとともに産卵する個体が増える見込みです。

ヨーロッパザラボヤの付着数は、平年では8月にかけて増加する傾向ですので（図2）、今後の付着数の増加に注目してください。

表1 付着生物調査結果（八雲町黒岩地区：令和7年6月24日）

| ホタテガイ1枚あたり平均付着数量        | 上層    | 中層    | 下層    | 地区平均  |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 全付着物重量                  | 3.1g  | 0.7g  | 0.5g  | 1.5g  |
| ヨーロッパザラボヤ               | 0.0g  | 0.0g  | 0.0g  | 0.0g  |
| その他                     | 3.1g  | 0.7g  | 0.5g  | 1.5g  |
| ヨーロッパザラボヤ個体数            | 0.0個体 | 0.0個体 | 0.0個体 | 0.0個体 |
| 令和6年6月（R6.6.26）<br>の個体数 | 0.0個体 | 0.2個体 | 0.6個体 | 0.3個体 |
| 令和5年6月（R5.6.14）<br>の個体数 | 0.0個体 | 0.6個体 | 0.2個体 | 0.3個体 |
| 令和4年6月（R4.6.26）<br>の個体数 | 0.0個体 | 0.0個体 | 0.0個体 | 0.0個体 |

図1 調査地点近傍（八雲沖3マイル）の令和7年6月24日の水温鉛直分布

赤線：R7年6月24日、青線：平年（H25-R6年の平均）  
点線：ヨーロッパザラボヤの産卵開始水温（13℃）

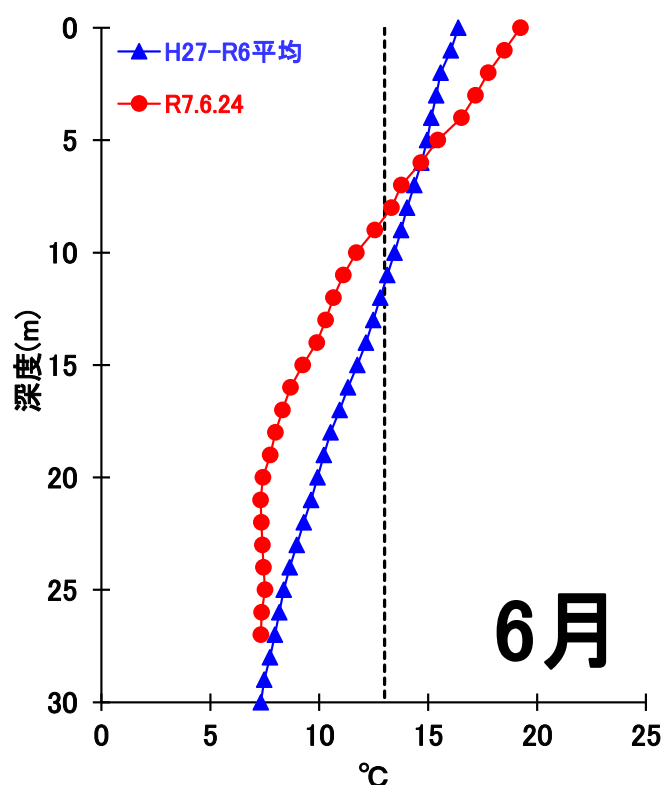
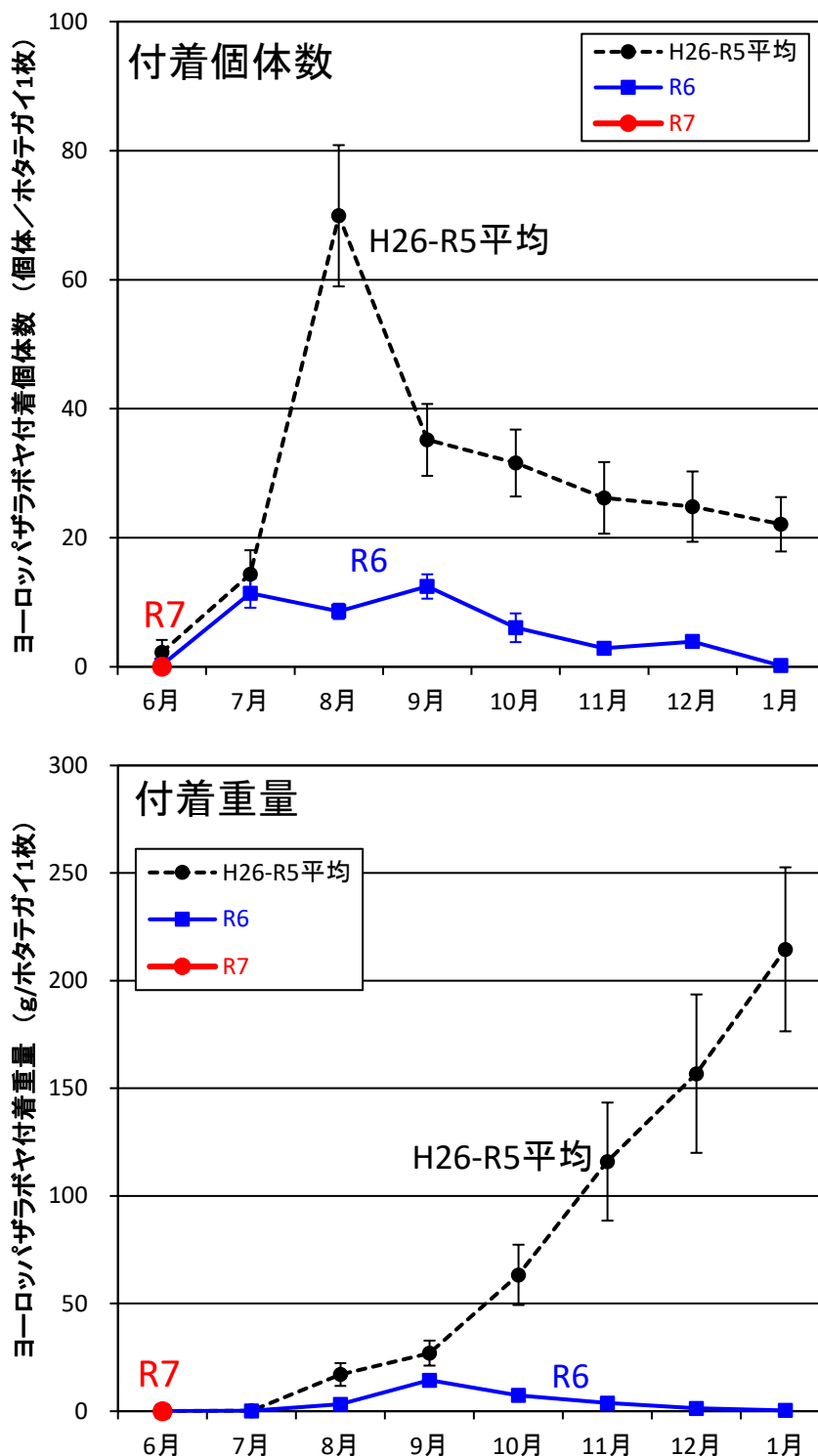


図 2 ヨーロッパザラボヤの付着量の季節変化



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去 10 ヶ年（H26～R5 年）のデータから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着数の 7～8 月に最も増加し、8～9 月に大きく減少します。10 月以降、個体数は緩やかに減少していきませんが、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加していきます。なお、H28 年 7 月、11 月、R1 年 4 月は欠測。影付きの部分は H21～R1 年までの平均値を示しています。